

備中力くらしき力 地域を語る

地域に根ざした医療を提供する倉敷平成病院



倉敷平成病院 高尾聡一郎理事長 全仁会グループ 高尾武男代表

患者本位

土佐 高尾理事長は就任されて2年半。この間を振り返って感想を聞かせてください。
高尾 理事長職に就いてからは、医師として一つの医療現場を大切にすると同時に、常にグループ



高尾聡一郎・倉敷平成病院理事長

た。検査部門では、昨年2月、最新の80列マルチスライスCT(コンピュータ断層撮影装置)1台を導入。この後もMRI(磁気共鳴画像装置)を更新し、来年1月以降、高画質画像を得られる3テスラ(テスラは磁力の強さを表す単位)のMRIを2台備えた体制になる予定です。病院の機能や診療の質を高めるため、これからも不断の努力を続けていきたいと考えています。
高尾 倉敷平成病院は、救急医療の分野で社会医療法人に認定されており、緊急時には医療の面で地域を支えるという役割を担っています。倉敷市での救急搬送件数は3番目の多さ。総社市でも既に主な救急搬送先の一つとなっており、市からの依頼を受け締結の運びとなりました。病院設立より「救急から在宅まで何時間か経つ時でも対応します」という理念に沿って運営してきました。今回の協定締結もこれに基づいており、できるだけ広く、救急医療を必要とする地域のニーズに応えたいと思っています。
土佐 地域に根ざした医療を提供する全仁会のモットーは、



高尾武男・全仁会グループ代表

救急受け入れ能力向上

高尾武 倉敷平成病院で、患者さんの入院中はもちろんのこと、退院してからも通所リハビリや訪問看護などのサービスでしっかりとフォローしていきたいですね。こうした「患者さん本位」の医療を進めることで、地域に貢献していきたいと考えています。
高尾 倉敷平成病院の25周年記念事業として職員公募で決めたロゴマークが理念を表現しています。全仁

の頭文字「Z」をかたどる、人と人、心と心を表す上を流れる川の中に3本の橋が架かっているデザイン。3本の橋は「社会医療法人全仁会」「社会福祉法人全仁会」「医療福祉研究所ハイセイ」の3法人を表しています。「グループ丸」となっており、患者さんやご家族との駆け橋になる」との思いを込めています。
土佐 近年は患者と医療従事者の距離が遠くなりがちという話も耳にします。高尾 患者さんとの距離を縮めるには、相互に理解し合い、われわれを好きになってもう必要がありません。そのためには、職員自身が自分たちのことを好きにならなければ、一

切れ目ない医療提供

「のぞみの会」

土佐 全仁会と患者、地域住民の交流会「のぞみの会」が11月、50回目を迎えます。
高尾 1982年、私が診察した患者さんやその家族の集いの場として発足しました。当時は私が専門とする脳卒中に関する知識が、まだ世の中にあまり広まっていなかった。少しでも情報をお伝えしたいと思い、患者さんやご家族と交流を進める中で、のぞみの会は自然に始まりました。脳神経疾患は後遺症が出る方もおられ、病院での治療後もサポートが必要。のぞみの会は、病状が安定した維持期の生活支援にも役立っているとあります。
土佐 毎回、どれくらいの方が参加しているのですか。
高尾 現在は年1回開催しています。参加者は回を重ねるごとに少しずつ増え、近頃は千人ほの方に申し込みをいただいています。中には初回から参加されている方

交流会50回、1000人規模に



山陽新聞社代表と高尾理事長の対談

もいます。最近では、認知症の患者さんやご家族が交流する「認知症予防カフェ」も定期的に開いています。主催は、県が当院を指定して開設した認知症対策の専門機関「認知症疾患医療センター」。参加者が互いに情報交換すること、心のケアにもつながっています。認知症予防カフェも「のぞみの会」という基盤があったからこそ成功したと思います。私は倉敷平成病院に着任した

山陽新聞社代表 土佐直樹代表
聞き手

2007年に初めて参加し、脳卒中の急性期治療について講演しました。それ以降は毎年、講演しており、病院への要望を肌で感じるいい機会になっています。参加者の声は、病院を正しい方向に導く重要なヒントになり、患者さんには「これが私の病院」と親しみを強くしてもらっていると思います。日々、病院と無縁の方にも、当院を身近に感じていただき、医療・介護に関する新しい知識を学んでいただく場としたのです。
土佐 「のぞみの会」の会場にはギャラリーも設けていますね。
高尾 手芸や貼り絵など、患者さんの作品を展示するコーナーです。作品制作は手や指を動かしますから、リハビリにつながります。認知症の予防・治療にも役立ちます。会がスタートした当初は、病状について医学的な知識を学ぶ講習会という側面も強かったのですが、参加者が思いを込めるよう工夫してきました。会を維持していくには『来て良かった』と思えるような感動が必要で、土佐 今後の抱負について教えてください。
高尾 個人的なことでは、患者さん向けに全仁会グループの施設で講演してあります。7月で千回を迎えました。楽しみにしてくださる方もおられますので、ライフワークとして続けていきたいと思っています。
高尾 全仁会グループとしては、病院や在宅総合ケアセンター、住宅型有料老人ホームといったハードを一通り構築できたと考えています。今後は、各施設それぞれで医療・介護を完結させるのではなく、患者さんの病状や環境を常に把握し、「グループ全体で患者さんに向き合う」という意識を持った組織にしていきたいです。人は、人と人とのつながりで成長します。私自身を含め、グループ一人一人が進歩することで、地域の医療・福祉が向上する。そんな組織でありたいと思っています。



社会医療法人全仁会倉敷平成病院

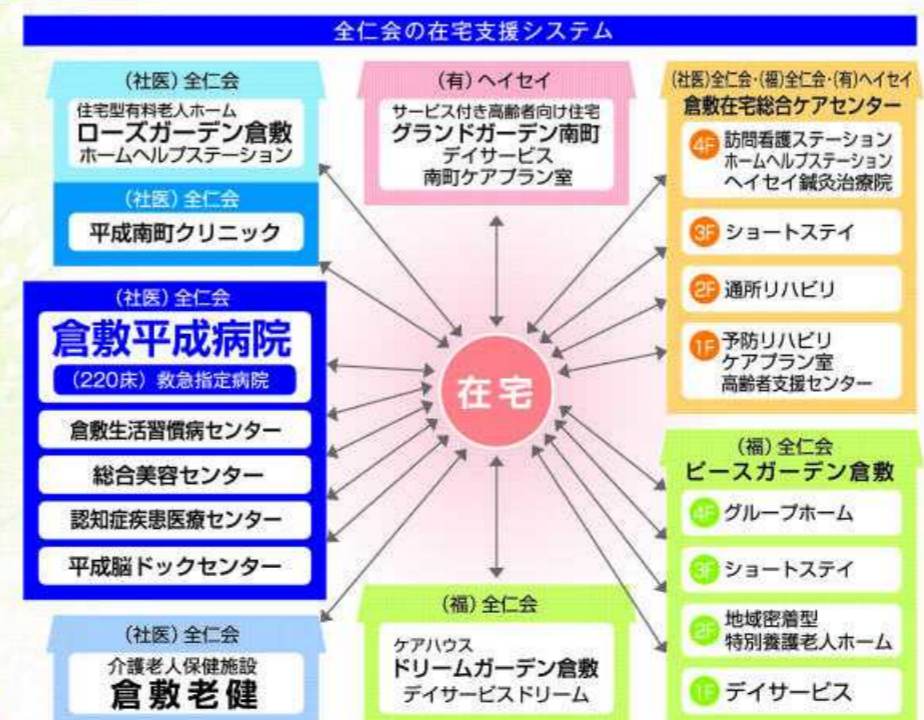
所在地	倉敷市老松町4-3-38	125人
開設	1988(昭和63)年1月	倉敷老健
診療科目	内科、神経内科、脳神経外科、脳卒中内科、整形外科、リハビリテーション科など24科	倉敷在宅総合ケアセンター
病床	220床	平成南町クリニック
職員	984人(医師31人、看護師225人、リハビリスタッフ)	ピースガーデン倉敷

社会医療法人 全仁会 倉敷平成病院

救急指定病院 TEL.086-427-1111 〒710-0826 倉敷市老松町4-3-38 FAX.086-427-8001

- 神経内科 ●脳神経外科 ●脳卒中内科 ●整形外科 ●リハビリテーション科 ●内科 ●消化器内科 ●循環器内科 ●呼吸器内科 ●耳鼻咽喉科 ●眼科 ●皮膚科 ●糖尿病代謝内科 ●美容外科 ●形成外科 ●婦人科 ●乳腺外科 ●漢方内科 ●麻酔科(和田聡) ●放射線科 ●歯科
- 人間ドック ●脳ドック ●訪問看護 ●生活習慣病検診 ●訪問介護 ●訪問入浴 ●予防リハ ●通所リハ ●ショートステイ ●ケアプラン ●倉敷老健 ●地域包括支援 ●ケアハウス ●住宅型有料老人ホーム

診療科



50回のぞみの会

「在宅医療の拡大」
～全仁会が支える安心のリレー～

11月8日(日) 9:30～14:00
倉敷平成病院にて(リハビリセンター)

勉強会 9:30～12:00
「脳卒中の救急から在宅医療」 倉敷平成病院 理事長(脳神経外科部長) 高尾 聡一郎先生
「認知症の予防について」 倉敷平成病院 認知症疾患医療センター長 浦谷 剛介先生
■体験発表～医療・介護の体験談を発表～ ■リラックスタイム ■医師紹介コーナー
「のぞみの会と全仁会の歴史」 全仁会グループ代表 高尾 武男先生

ふれあい広場 12:30～14:00
●作品展示「ギャラリーのぞみ」 ●医療相談 ●介護相談 ●健康チェック ●鍼灸体験 ●歯科コーナー ●各施設の紹介 ●湯茶コーナー
★モザイクアート★せつこんコーナー
★リハビリバランスチェック★美容センターコーナー
★教えちゃいます私の健康コーナー などなど盛りだくさん!

昼食付
ヘルシー弁当を
をご用意します。
※人数に限りがございます

参加無料

※11月2日(月)までに事務局までお申し込みください。
倉敷平成病院 のぞみの会事務局 TEL.086-427-1111